

## 訪中報告(1)

動労千葉執行委員 布施宇一

\*\*\*\*\*

六月四日から十四日まで、第二回日中友好千葉県労連訪中団の一員として、中国各地を訪問してきました。県労連から動労千葉への参加要請がかなり急であつたこともあり、私自身として充分な準備を整えて訪中するといふ体制がとれず、訪中の成果を、今後の動労千葉の中へどれだけ生ずることができるのかといふことについて心もとない部分もありましたが、自分なりに精一杯経験を生かしてゆきたいと考えています。私が北京市生れて、訪中希望を強く持っていたといふこともあり、今回の訪中団に送り出し、また、多額のカンパその他の助力を寄せられた全組合員みなさんに紙上をかりて、心からのお礼を申し上げます。若干の報告をしていきたいと思います。

\*\*\*\*\*

上海・南京・成都・北京

第二回県労連訪中団は井原団長(県労連議長)以下県労連傘下の各単産、地区労の各級役員・活動家二十三名で構成され、上海・南京・成都・北京の四都市とその周辺の省・市人民委員会、総工会、人民公社、小学校、病院、鉄鋼所などを訪問し交流・見学を行うとともに、中山陵(孫文墓)、杜甫草堂、万里の長城などの名勝見学を行いました。

極めて短い日数の中で、広大な中国をたび回つた感じで、都市間の移動は上海・南京間が列車で、その他は全て飛行機。毎日の見学は朝八時・九時に迎えに来るマイクロバスで一日中動き回るといふことのくり返りで、久しぶりで「修学旅行」に参加した感じがした。

飛行機から見下ろす長江(揚子江)の蛇行する広大な平野の広がり、列車やバスの窓外に広がる風景、垣間見た中国人の生活、そのひとつひとつが鮮烈で、帰国後一ヶ月近く経た今でも自分の感想を整理しきれないような感じています。そのような中で、日刊「動労千葉」編集委からの「早く」という要請もあり、また、送り出して頂いた者の当然の義務でもあり、とりあえずいくつかのことを報告したいと思います。

生きているSL

今回の訪中団は国鉄労働者だけの訪中団でなかったこともあり、鉄道関係の職場訪問がなかったことは非常に残念でしたが、上海から南京まで五時間の列車の旅があり、この途中と、万里の長城見学の途中のマイクロバスの中からの二回、生きているSLを見ることができ大変楽しい思い出になりました。

南京駅の近くで、かつての新小岩機関区と比べても数倍の数の機関車が夕暮れの中で静かに煙を出しながら置かれていた大機関区が遠くに見え、新小岩で点火番をやっていた頃を思い出しました。SLは基本的に貨物列車に使われ、旅客列車は主にDLで牽引すると聞きましたが、北京から八達嶺(万里の長城)への旅客列車はSLでした。土気・大網間のような勾配線が延々と何十キロも続く登り一方の線路を力強く登る列車を「下りのブレーキ扱いはどうするのか」と思いながら見てきました。また、上海から南京への五時間の中で特に感じたことは、線路が草一本ない状態で保守されており、われわれの走る線路と全く違っていることでした。

一九四九年の解放後、線路延長キロが倍増し、かつては、まさに陸の孤島であつた四川省が、今では鉄道で南京、上海、昆明等と結ばれたということ。成都市での交流で聞きましたが、六〇トンの貨車を七〇両近くも連結した貨物列車が地響きをたてて通り過ぎるのを見ながら、日本の国鉄攻撃の現状を考え総合的な交通政策のあり方次第で、国鉄がまだまだ有効な交通手段として活用できるし、そのためにいま、われわれが闘っている「三万人体制粉碎」の闘いの正義性への確信を強くすべきだと思いました。



SLは窓から見る車窓から見た上海から南京へ向かう列車